

北日本新聞 8月15日 1面の「特攻死の兄志
えな」の記事を読んだ

私にとて「戦争」とは教科書や授業で
教わった過去の出来事ではなかった。この記
事を読み、同じ市内の私より10年以上の人が
自ら進んで軍隊に入り、たと知り、驚いた。こ
のころと比べ、現代で軍隊に入る人はそう多
くはないかと思う。戦争の末期、日本が追い
つめられた結果、神風特攻隊を採用し、特

攻を行、たことは知、こはいたが、他にも「
回天」という特攻があ、たことを知り驚いた。
特攻は自分の命と引き換えに相手に攻撃する
法であるが、その成功率はとても低い。しか
し、確実に命を確実に命は落としてしまふので
、親にも「た命をも、と大切にしなければ。
と、いう現代の考え方はありえな、ことだ。
正明さんの兄、一えさんは軍隊に入り、回
天で特攻死した。一えさんは反対する親を説
得し、海軍に志願するなど、自分の信念を貫く

人だと感じた。そしてこのころの日本は、戦
争で自分の命を使って国の役に立つことこそ
があたりまえだと思われていたと思う。末弟
の正明さんには「一えさんの『小森家の末代
まで伝えてほしい』という願いをぜひかたえ
てほしい」と思う。そして戦争中に「一体何が日
本で起きたのかを日本だけでなく世界に広め
て二度と同じことを繰り返さない世界にして
いってほしい」。

記者の方がこの記事を書いたのは、戦争は

恐ろしいものだった。うことを多くの人々に改
めて実感してほしが、たかすではないかと、
私は思う。現代では戦争を体験した人、ま
まが少なくなり、このような出来事が日本
にあつたことを知っていている人が減少してい
ることも関係している。考える。毎日の新聞は
ちたしたたちの暮らしに大きく関ち、ている。
身近な出来事から世界情勢まで、一日の紙面
で幅広く知ることができる。もちろ人現代で
はテレビやインターネットなど、情報を得る

こどもでできるが、新聞を読むことはたはうレビ
ヤインターネットにはない別のなたさきもある
ると私は感じている。新聞には筆者の意が書
いてあるので、自分の考えと照らし合わせ、
相違点について深く考えることができれば、
つまり新聞は新しい情報を得るだけでなく、
自分の考えを深める手段の一つとなるのだ。
今年で戦後七十年になり、戦争を覚えてい
る人も少なくなってきた。この記事を読
んで、少しでも多くの一人一人の思いを
知、てもういたいと思、た。この戦争を、た
だ多くの人が犠牲にな、てしま、たものにあ
るので、はかく、現世や来世に受け継ぎ、二度
と戦争が起、こ、ることがない世界へとつな、か、
て
い
き
だ
い